



医療法人 光の会

重本病院

第67号

2020. 1. 15

〒759-6312

山口県下関市豊浦町大字黒井10097-50

TEL083-772-0014

FAX083-774-3460

E-mail: info@shigemoto.or.jp

ホームページ <http://www.shigemoto.or.jp>



患者作品: あけましてポケモンボール

目次:

新年を迎えて	～病院長 重本 拓～	2ページ
第43回 中国・四国精神保健学会参加報告in松江	～南館2病棟看護主任 吉田 由香～	2ページ
	～北館1病棟 福田 康子 ・ 南館2病棟 川並美世子～	3ページ
日本精神科看護協会山口県支部親睦ソフトバレーボール大会～精神保健福祉士 中村幸太郎～		3ページ
公認心理士のお仕事	～公認心理士 網中 望美～	4ページ
デイケア活動報告～初詣～	～デイケア主任 縄田 基成～	4ページ

病院理念

誠意をもって医療にあたろう
心もむ人の痛みを理解しよう
心の和む雰囲気を作ろう

基本方針

患者本位の医療を实践する

運営方針

電子カルテ導入
安全管理の基でチーム医療を推進しよう

新年を迎えて



30年の間なじんできた平成も終わりとなり、昨年5月1日より令和という元号に変わって、新たな令和の時代の幕開けとなりました。令和2年の新春を迎えるにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

時代の節目となるこの時期に相応しい明るいビッグニュースを、と振り返ってみてまず思い浮かぶのは、旭化成（株）名誉フェローの吉野彰先生のノーベル化学賞の受賞でした。長い進化の歴史を持つ電池ですが、先生はリチウムイオン電池開発への貢献が特に評価されたようです。先生の描くリチウムイオン電池の未来展望として、IT（情報技術）革命からET（エネルギー技術）革命へ、つまり携帯電話やパソコンからもっと大きな人類共通の課題、資源（食料も含む）・環境（CO2）・エネルギー（発電・送電・蓄電）といったことに対する解決策をも見出していこうと述べておられ、もう既に先陣を切って電気自動車（EV）の革命が動いているとのこと。誠に素晴らしい初夢を見たような気分になりました。

また、今年2020は国の威信をかけた世界最大のスポーツの祭典、東京オリンピック・パラリンピックの開催の年でもあります。もう既にメインスタジアムとなる新国立競技場も完成し、この夏季の各競技実施へ向かって着々と準備中のようなのである。前回の1964東京大会が戦後の復興を世界にアピールし、高度経済成長へのきっかけともなったが、この度の祭典は吉野先生が未来展望として描かれたエネルギー、環境などET技術革新の一層の進展へのきっかけをもたらすのではと期待も膨らみその成功に声援をおくりたい。

さて、私どもの病院も令和の新時代を迎えた中で、志を新たに時代に沿った質の高い精神科医療を確保するよう努めるとともに「患者さんが望んでいる医療」を今後も基本的課題として、電子カルテの導入など病院の運営・業務の効率化を推進しながら時代の節目を乗り越えていきたいものだと考えている。引き続きみなさまのご支援の程よろしくお願い申し上げます。

医療法人光の会 重本病院
院長 重本 拓

第43回 中国・四国精神保健学会参加報告in松江 当院から4演題発表しています

11月21日、22日の両日、島根県松江市で、第60回中国・四国精神神経医学会、第43回精神保健学会が開催されました。テーマは「暮らしに寄り添う精神医療・保健をめざして」と題され、精神障害者に対する入院医療中心から、地域移行及び定着支援のための質の高い精神医療の提供、長期入院患者の退院促進についての取り組み方など、これからもより一層充実させねばならないということでした。今回、こどものこころを支えるプライマリケアや災害時の精神保健活動、また、認知症を深刻化させないための予防や取り組み、新人教育や行動制限等といった充実した豊富な内容で、とても興味深いものばかりでした。認知症患者に夕食後の歯磨きを導入し習慣化することによる肺炎予防への取り組みは、OHATスケールという口腔内評価標準ツールを活用した事例がありました。当病棟も口腔ケアが充分に出来ているとは言えない場面もあり、訪問歯科による口腔ケアに依存している傾向も見られます。今後は、効果的な口腔ケアに着目し、口腔ケアを重視した肺炎予防の取り組みに努めていきたいと思われました。



当院からは4題発表しましたが、院内発表後さらに内容をバージョンアップし、また練習の成果も十分に発揮され、みなさん質問にも冷静に対応されていました。中にはお褒めの言葉や、的確なアドバイス、看護介入の難しさを共感して頂けた嬉しい場面も多々あり、とても有意義で充実した2日間でした。発表後は旬の魚介類も美味しくいただきました、ありがとうございます。

南館2病棟看護主任 吉田 由香

今回の看護研究では、「精神科急性期治療病棟における感染予防対策の実態と考察」という演題で発表させていただきました。この看護研究を進めていく中で、数年前のインフルエンザのアウトブレイクを振り返り、病院の構造も踏まえた上で如何に対応していくかという課題も残りました。しかし、精神科の特殊性により起こる感染予防対策における問題に対して、過去の症例から学べることは多く、今後の対応に生かしていけると感じました。

閉鎖病棟への市中感染症の持ち込みは職員である可能性が最も高いため、日々の業務の中で、精神科の特殊性を考慮した感染予防対策を、全ての職員一人一人が予防意識を持ち、「持ち込まない」・「持ち込ませない」対策に取り組んでいく必要があると思いました。

看護研究発表では、他院の急性期治療病棟の看護師からいくつか質問を受け、同じような状況を経験されている方の共感を得ることができました。それぞれの病院で、それぞれに合った感染予防対策を試行錯誤しながら行っていることを知ることができ、情報共有の機会にもなったと思います。

看護研究は、患者に最良な看護ケアを実施する為の科学的根拠を採求することを目的としているということ、自身の看護研究を通して改めて学びました。自分の考えを人に伝えることはとても難しく、考え、言葉にし、伝える事の大切さ、その方法を身につけることの重要さを知ることができる機会となりました。

北館1病棟 福田 康子



本学会に参加するのは2回目で「こだわりに付き合う関わりから見えたもの～発達障害患者の看護介入に苦慮した一例～」を発表させていただきました。看護が二分していた状態で何度もカンファレンスを行ない、発達障害について学び、関わりを統一して成果が出せた内容を看護研究として発表できたのは病棟スタッフの協力のおかげだと感謝しています。

学会のテーマは前年度のテーマ「精神保健・医療における多職種連携をめざして」をさらに発展させることを意識し、「暮らしに寄り添う精神科医療・保健をめざして」と題して、地域医療・保健の中で多職種が総合的に、この地に暮らす人々の医療・保健の向上を目指します。とあり、第3会場まであったので全部の発表を聴く事はできませんでしたが、煩雑な業務の中でも患者さんのケアの向上のために業務の体制を変えてみたり、患者、家族関係の修復の仲介役を担ったりと他の病院の取り組みについて聴くことが出来、とても参考になりました。症状の改善だけではなく、患者さんに寄り添った看護の大切さを改めて学ぶことが出来ました。現状に満足せずに患者さんが自分らしく生活出来るように今後の看護に活かしていきたいと思えます。

新幹線、特急列車、バスに乗り換え6時間以上の移動でしたがスタッフと親睦を深めることが出来、国宝に指定されている松江城も見ることができて思い出に残る学会となりました。

南館2病棟 川並美世子

日本精神科看護協会山口県支部親睦ソフトバレーボール大会

令和元年12月14日に日本精神科看護協会山口県支部主催のソフトバレーボール大会が行われ、我が重本病院バレーボールチームも参加させていただきました。県内の精神科病院や関係施設の多職種の方々が参加している大会で、毎年この大会への参加を目標に、また今回は三連覇を目指して日々の練習に取り組みました。今年度は我々のチームにも新人女性の加入という喜ばしい出来事があり、平均年齢的にはかなり若返ったフレッシュなチームとして参加することができました。

迎えた当日、練習の成果やメンバー加入のおかげもあり、選手交代なども有効に活用しながら、危なげのない試合運びとなりました。その結果、無事に三連覇を達成することができました。



毎年この大会への参加を続けることで、他病院との交流も増え、元々の大会の趣旨である親睦も図ることができ嬉しく思います。

来年度は早い時期での開催が予定されているということでしたので、またそれまでに練習を重ね、更なるレベルアップを目指したいと思います。

また現在当院のチームは毎週火曜日に練習を行っていますが、なかなか人数が集まらないことも多く、満足な練習ができていない状況です。参加してみたい方は歓迎いたしますので、興味のある方は是非お声掛けください。

精神保健福祉士 中村幸太郎

心理職に求められている業務としては、大きく分けて以下の4つがあります。

①心理アセスメント

心理アセスメントとは心理査定とも言い、患者さんの現在の問題、症状、状況を把握し、どう援助すればよいか方向付けるための作業です。

患者さん本人や家族の方から聞いた話、家庭や病院での様子、心理検査の結果などの情報を整理しながら、何に困っていて、どこに問題があり、どのようにすれば解決に向かうのかを考えていきます。

このとき行う心理検査には、質問を読んで○をつけてもらうもの、絵や文章を書いてもらうもの、手を使って色々な作業をしてもらうものなど、色々な種類があり、目的に合わせて使い分けています。

②心理面接

心理面接はカウンセリングとも言い、心理アセスメントでわかったことをもとに、患者さんと心理士が問題の解決に向けて話し合っていくことを指します。

話し合う中でこれまで意識していなかった自分の問題点に患者さん自身が気づいたり、心理士が気づいて指摘したりすることを通して、解決法を一緒に考え、より生きやすくなることを目指します。それだけでなく、話をするだけで心が軽くなる方もいらっしゃいます。

また、心理面接で話し合ったことをもとに、最初に行った心理アセスメントの内容を修正し、よりの確かな患者さんの理解につなげていくこともあります。

③地域の心の健康活動への参加

たとえば、ストレスへの対処法を地域の方々に広めたり、災害などが起こった時の心の支援をするなどが挙げられます。面接室での1対1のやり取りだけでなく、大勢の人へのアプローチも必要とされています。

④研究・調査とその発表

これは患者さんたちとの日々の関わりや心理面に対する調査を通して、気づいたことやわかったことなどを他の心理職や専門職に向けて発表し、知識や技術を互いに深めていくことを目的としています。

また、心理職は一人で患者さんに対応することが多いため、他者へ向けて発表することを通して自分の業務を客観的に振り返ることも重要な意味を持っています。

当院では、①と②を主に院内で行い、③は地域の会議への参加、④は学会等での発表によって取り組んでいます。

最後に、心理職として患者さんに関わる際大切にしていることをお伝えしたいと思います。それは、患者さんを「一人の人間として見る」ということです。

体をケガした場合は、そのケガが治れば解決したことになります。しかし、心はそう簡単なものではないので、ある部分がなくなれば全部解決する、ということはほとんどありません。心理士としては病気の部分や困ったところをどう小さくしていけるかだけでなく、悪い部分がありながらもよりよい生活をするにはどうすればいいのか、何が困難を作っていて、どう変化すればその人がその人らしく生きていけるようになるのか、といつも考えながら患者さんと関わっています。

皆さんも機会があれば心理士に話しかけてみませんか？

公認心理士 網中 望美

デイケア活動報告 ～初詣～



1月10日のレクリエーションで初詣に行きました。福德稲荷での参拝は毎年の恒例行事のようになっています。当日は快晴で海が大変きれいで絶景でした。参拝後はおみくじを引いたりお守りを買ったり、1年の感謝を捧げたり新年の無事と平安を祈願しました。

デイケア主任 縄田 基成

～編集後記～

《大寒卵》

大寒の頃は、日本が一番寒い時。気温が一番低くなる時期です。昔はこの頃に、ニワトリは卵をあまり産まなくなります。それだけに時々生む卵には栄養がたっぷり詰まって健康に良いと考えられたそうです。今年の卵はどうでしょうね？

広報委員：山田